

令和2年度 第1回 八千代市上下水道事業運営審議会会議録

開催日時 令和2年10月12日(月)
午後2時 開会 午後3時50分 閉会

開催場所 八千代市役所 新館6階 第4会議室

議 題 (1) 会長及び職務代理者の選出について
(2) 令和元年度決算の報告について
(3) 第2次八千代市水道事業経営戦略実施計画及び、第2次八千代市公共
下水道事業経営戦略実施計画について
(4) 上下水道局庁舎の移転について

出席者名

出席委員	袖 澤 利 昭	委 員
	齊 藤 幹	委 員
	小 倉 久 子	委 員
	岩 佐 行 利	委 員
	伊 藤 宣 行	委 員
	大 内 総一郎	委 員
	梶 原 則 男	委 員
	菖蒲澤 正 子	委 員

事務局

高 橋 次 男	事業管理者
新 谷 等	上下水道局長
齋 田 忠 徳	経営企画課長
藤 縄 和 彦	給排水相談課長
佐 藤 淳 也	上水道課長
清 田 克 徳	下水道課長
吉 田 勝 祐	下水道課主幹
種 田 聖 史	経営企画課副主幹
工 藤 拓	経営企画課主任主事
飯 島 香世子	給排水相談課副主幹
石 塚 貴 彦	上水道課副主幹
門 倉 均	上水道課副主幹
西 村 政 則	上水道課主査

公開・非公開の別 公 開
 傍 聴 人 1 名 (定員 5名)
 所管課名 上下水道局経営企画課
 電話番号 0 4 7 (4 8 3) 6 5 7 2 内線 2 8 0 3

(会議録)

市長挨拶
 事業管理者挨拶
 職員及び委員紹介

【議題1】 会長及び職務代理者の選出について

工藤経営企画課主任主事	八千代市上下水道事業運営審議会条例第5条第1項の規定により、会議は、会長が議長となり進めることとなりますが、会長が決まるまでの間、経営企画課長の齋田を仮の議長とさせていただきたいと存じます。いかがでしょうか。
委員一同	(異議なし)
工藤経営企画課主任主事	ただ今、異議なしとのご発言がありましたので、経営企画課長の齋田を仮の議長とさせていただきます。 なお、コロナウイルス感染症対策のため、本日、席の移動を極力控えさせていただきますと思いますので、現在の席から議事の進行をさせていただきたいと思います。
齋田仮議長	改めまして、会長が決まるまでの間、仮の議長を務めます経営企画課長の齋田でございます。よろしく願いいたします。会長につきましては、八千代市上下水道事業運営審議会条例第4条第1項の規定により、「審議会に会長を置き、委員の互選により定める。」となっております。会長の選出につきましては、指名推薦により行いたいと思いますが、いかがでしょうか。
委員一同	(異議なし)

齋田仮議長	ご異議がないようですので、指名推薦とさせていただきます。会長として推薦するご発言があれば、お願いいたします。
岩佐委員	はい。会長職として、袖澤委員が適任と思いますので、推薦させていただきます。袖澤委員は以前、八千代市の水道事業運営審議会の委員を務められておりますし、大学の先生でいらっしゃいますことから、幅広い見識をお持ちですので、この審議会の会長に適任と思いますので、ご推薦させていただきます。
齋田仮議長	ただいま、岩佐委員から袖澤委員を推薦するご発言がありました。いかがでしょうか。
委員一同	(異議なし)
齋田仮議長	袖澤委員よろしいでしょうか。
袖澤委員	はい。
齋田仮議長	ありがとうございます。互選により、袖澤委員が会長に選任されましたので、これ以降の会議の進行は袖澤会長に務めていただきます。よろしくお願いいたします。
袖澤議長	ご指名により、議長を務めさせていただきます。今日の議題につきまして、皆さんにご協力をいただき、つつがなく進行してまいりたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。 それでは議事を続けます。八千代市上下水道事業運営審議会条例第4条第3項の規定により、「会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、あらかじめ会長が指名する委員がその職務を代理する。」となっておりますので、私から指名をさせていただきます。 これまで4年間、本審議会の委員を務められ、引き続き委員にご就任されております岩佐委員にお願いしたいと思ひますが、お引き受けいただけますでしょうか。
岩佐委員	はい、承ります。どうぞよろしくお願ひいたします。
袖澤議長	ありがとうございます。よろしくお願ひいたします。それでは、次の議

	題に移りたいと思います。
--	--------------

【議題2】 令和元年度決算の報告について

袖澤議長	<p>議題2「令和元年度決算の報告について」、事務局から説明をよろしくお願ひします。</p>
齋田経営企画課長	<p>経営企画課長の齋田です。私から、議題2の令和元年度決算の報告について、資料1に基づいてご説明いたします。</p> <p>私ども上下水道局では、水道事業と公共下水道事業の2つの事業を行っておりますが、それぞれ、別々の会計となっております。</p> <p>まず、水道事業の決算についてご説明いたします。1ページをご覧ください。</p> <p>まず、収益的収支です。2ページ上段にお示した損益計算書の円グラフもあわせてご覧ください。収益的収支は、施設の維持管理など、日々の営業活動を行うための費用と、それを補うための収入の状況を表しています。</p> <p>収入につきましては、営業収益は32億5,599万9千円、そのうち給水収益は30億4,784万1千円となっております。給水収益は、令和元年10月に水道料金の改定をしたこともございますが、平成30年度に比べ7,900万円ほどの増加となっております。営業外収益は8億7,581万3千円で、そのうち納付金は4億6,423万1千円となっております。特別利益は258万2千円となっておりますが、これは、上下水道局が所有していた用地を売却したことに伴う売却益等です。以上、収入の計は41億3,439万4千円となっております。</p> <p>支出につきましては、営業費用は33億1,212万4千円で、前年度に比べると5,800万円ほど増加しています。営業費用の主なものは、管路・施設の維持・修繕費、受水費、事務経費、減価償却費、職員人件費などです。営業外費用は2億1,247万2千円で、企業債の支払利息が主なものとなります。特別損失が70万5千円となっております。以上、支出の計は35億2,530万1千円となっております。</p> <p>収入から支出を差し引いた純利益は6億909万3千円となり、黒字を維持しています。過去10年間の給水収益と当年度純利益の推移は、下の折れ線グラフのとおりとなっております。</p> <p>次に資本的収支です。こちらも2ページの下の円グラフとあわせてご覧ください。資本的収支とは、新たな施設の整備や既存施設の更新を行うための費用と、その財源になります。</p> <p>収入の計は8億6,731万9千円で、内訳は企業債4億8,180万</p>

円、他会計出資金4千万円、工事寄附負担金2億5,002万4千円などとなっています。

支出の計は23億3,566万6千円で、内訳は建設改良費16億6,853万3千円及び、企業債償還金6億6,713万3千円となっています。なお、建設改良費のうち約11億4,524万円は、管路の更新に係る事業費です。資本的収支で生じた14億6,834万7千円の不足につきましては、減価償却費などの現金を伴わない支出などの内部留保されている資金で補填しています。

3ページをご覧ください。企業債と保有資金残高の説明となります。近年は、主に管路更新のための事業費の財源として企業債の借入れを行っています。令和元年度の借入額は4億8,180万円、年度末企業債残高は134億5,263万円、年度末保有資金残高は27億8,615万7千円となっています。中段のグラフの青い折れ線がお示しするとおり、近年、企業債残高は増加傾向となっており、企業債の借入れを抑制しながら事業を行っていくことが課題となっております。

続きまして、利益積立金の説明です。利益積立金につきましては、欠損金が生じた際の補填のために、以前から15億円の積立金を保有していましたが、平成28年度以降、企業債償還金に充当しており、令和元年度末で5億2千万円まで減少しております。今後も企業債償還金への充当を行う必要があり、利益積立金はあと数年でなくなる見通しです。

4ページをご覧ください。

こちらは、水道管路の布設状況及び耐震化の状況となります。令和元年度末における配水管の布設状況は、配水管、送水管及び導水管の全ての管の延長の合計は、703.28kmとなっています。耐震管の状況につきましては、耐震管の年度末延長は416.71kmとなり、市内における水道管の耐震化率は59.3%となっています。なお、平成30年度の千葉県全体の水道管の耐震化率の平均は24.5%となっており、八千代市の耐震化率は県内で高い水準となっています。

また、市役所や消防本部、警察署、保健センター、病院、公民館、小・中学校などの避難場所や災害対応活動の拠点を重要給水施設と位置付け、ここへつながる管路の耐震化を優先的に進めており、この重要給水施設への管路の令和元年度末の耐震化率は80.2%となっています。

以上で、水道事業会計の説明を終わります。

続きまして、公共下水道事業の決算状況を説明いたします。5ページをご覧ください。

まず、収益的収支です。6ページ上段にお示しした損益計算書の円グラ

フもあわせてご覧ください。

収入につきましては、営業収益は25億6,557万5千円、そのうち主なものである下水道使用料は21億7,614万8千円となっています。営業外収益は7億2,140万6千円となっております。以上、収入の計は32億9,680万1千円となっています。

支出につきましては、営業費用は29億5,855万8千円となっています。主なものは、流域下水道維持管理費及び減価償却費です。営業外費用は1億6,653万3千円となっており、企業債の支払利息が主なものとなります。

特別損失は985万5千円で、八千代市教育委員会へ遊具等を譲渡したことによる固定資産の譲渡損を計上しているものが主なものとなっております。以上、支出の計は31億3,494万6千円となっています。

収入から支出を差し引いた純利益は1億6,185万5千円となり、平成27年度の使用料改定以後、黒字を維持しています。過去10年間の下水道使用料収入と当年度純利益の推移は、下の折れ線グラフのとおりとなっています。

次に資本的収支です。こちら、6ページの下の円グラフとあわせてご覧ください。

収入の計は15億3,151万5千円で、内訳は企業債5億9,410万円、国庫補助金5億9,151万8千円、負担金2億8,015万5千円などとなっています。負担金は、雨水に係る経費の一般会計からの負担金、受益者負担金及び、八千代1号幹線など他市と共同で運営している施設の整備を八千代市が行ったものに係る他市からの負担金などとなっております。

支出の計は23億8,163万3千円で、内訳は建設改良費17億1,056万9千円、企業債償還金5億8,389万7千円などとなっています。資本的収支で生じた不足額9億2,463万円については、減価償却費などの現金を伴わない支出などの内部留保資金で補填しています。

7ページをご覧ください。

令和元年度の企業債の借入額は5億9,410万円、年度末企業債残高は81億4,580万9千円となっております。近年は、八千代1号幹線沿線地域の浸水被害軽減対策のための、大和田南小学校の校庭地下への調整池築造工事に多額の資金が必要となり、その財源として企業債の借入れが増加しておりますが、今後も八千代1号幹線沿線地域の浸水被害軽減対策のための管渠布設工事や、その他の地域の道路冠水が発生する箇所における雨水排水施設の整備や、老朽施設の更新を行っていくための財源とし

<p>袖澤議長</p>	<p>て企業債の借入れを予定しております。</p> <p>年度末保有資金残高は14億2,480万4千円となっており、保有資金残高は増加傾向にあります。</p> <p>説明は以上となります。よろしく願いいたします。</p> <p>ただいまの事務局からの説明につきまして、ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。</p>
<p>齊藤委員</p>	<p>1点だけ教えてください。1号幹線の負担金も2億8千万円の中に含まれているというお話がございましたが、確かこれは、千葉と、それから船橋、習志野、八千代の共同による事業としての整備を進めていると思いますが、八千代市じゃなくて、その他の市の進めている進捗状況というんですか、八千代市の場合は、さっきお話がありました南小の地下に、それとあと、貯留管をやっていますけれども、他の市はどのようなことをしているのか、その辺の内容についてお話しいただければありがたいなと思うんですけれど。</p>
<p>清田下水道課長</p>	<p>八千代市と、船橋、千葉、習志野と、この4市でやっておりますが、他市ということなんですけれども、他市については、過去にありました事業の起債の償還金についての事務をやっておりますけれども、現場で何かを整備しているかという、今現在は、上流の方では何も工事は着手されておられません。</p>
<p>齊藤委員</p>	<p>そうしますと、他市の状況というか、いろんな事情があると思いますので、なかなか本市みたいに南小の地下に調整池を造れる余地がないので、負担金ですか、そういったものでしか、いただいてないということですね。そういうことでよろしいですか。</p>
<p>清田下水道課長</p>	<p>八千代市が一番最下流になりますので、どうしてもまず下流の整備ということの中で、かかった費用に関して負担金をいただいていると、他市の方の事業っていうのはまだ、それほどされてないという形です。</p>
<p>吉田下水道課主幹</p>	<p>他市からの負担金につきましては、基本的に今、八千代1号幹線、これも上流側の部分で、習志野市、あと船橋の方でも上流の部分で、雨水の管を造っているんですけど、そちらの方はもう整備済みという形ですね、起債の償還金を我々の方が払ったり、向こうから払ってきたりという形で</p>

	<p>行っています。今、大和田南小学校の地下の調整池が造られたところと、その下流側の方に作っている管渠が、我々の方で大きな工事としてやっているんですけど、これにつきましては、他市からの負担金はいただいております。八千代市だけで整備を行っています。国費は使っておりますけれども、他の市町村から負担金をいただいているという形では行っておりません。</p>
<p>齊藤委員</p>	<p>最下流の花見川の浚渫ですか、そういったもの、流れを良くするという、そういった、千葉県の方でも何か行っているということによろしいですか。</p>
<p>吉田下水道課主幹</p>	<p>出水時期の頃になりますと、印旛沼の方の関連の調整会議があるんですけども、その中で千葉土木事務所さんの方から、花見川の部分で浚渫を一部行っているという話は伺っております。この場所がどこなのかっていうことを、今お伝えできないんですけども、基本的には今、橋の架け替えとか、そういうところをやっている付近を浚渫しているというお話を伺っております。</p>
<p>小倉委員</p>	<p>3ページの下の方に、利益積立金というのがあって、これがあと数年でなくなる見通しとなっています、と書かれておりますが、これはゼロにしてみても良いものなのか、万一のための積立金なのか、残しておくのか。限られた収入をどこに振り分けるかという問題だと思いますが、これから先どういうふうにしていくつもりなのか、教えていただければと思います。</p>
<p>齋田経営企画課長</p>	<p>こちらに「企業債償還金への充当」と記載しております。企業債の元金を返していくことに使っておりますが、利益積立金以外にも資金がありますので、こちらの方を償還金への充当に使ってまいります。</p>
<p>高橋事業管理者</p>	<p>補足させていただきます。過去においては純利益部分を積立金という形で蓄えておくという形であったと思うんですが、現況はですね、蓄えておくという余裕がないと。起債償還のための減債積立金という形で一旦入れて、それを次年度の起債の償還の方に充てております。保有資金残高が裕福だった時代にはそれを積み立てながら、使っていくという形でありましたけど、現状では、純利益を減債積立金に充てて、償還金に充てていくという形をとっていますので、利益積立金が枯渇するからどうのこうのとい</p>

	<p>うことではなくて、運用の仕方が変わってきているというふうに理解いただければと思います。</p>
小倉委員	<p>ゼロになっても心配ないといえますか、きちんとお考えの上での割り振りということでしょうか。</p>
高橋事業管理者	<p>はい。利益積立金がゼロという形になったとした場合でも、内部留保資金の方ですね、例えば災害対応ではどのくらい費用かかるかわかりませんが、目安としては15億円程度は毎年、保有資金を確保したい。それから近年、工事の平準化ということも言われていますので、繰越事業に対する前払い金の資金も確保しておかなければいけないということで、内部留保資金をどう、いかに確保していくかということに重点を置いておりますので、その辺のところを注意しながら進めていきたいと考えています。</p>
小倉委員	<p>もし、こういう資料を、多分市民の方に向けても公表することがあると思うんですが、そういうときにこの表現の仕方として、ゼロになるけれども心配はないのだというような書き方をさせていただく方が、市民の方たちとしては安心できるという気がいたしました。</p>
大内委員	<p>市長からのお話にもあったように、大変厳しいというご発言でしたが、どこが一番厳しいんでしょうか。毎期、収益があがって、利益積立金で償還してるということですが、償還できなくてもまた企業債を借りれるということで、収入に対して企業債の残高も随分減ってきておりますし、30億に対して10億程度だったら別に危機感もないように思いますが、どこが厳しいかということと、あと、将来的に人口が減ってくるというお話も聞いておりますが、どれぐらいはまだもつかとか、見通しがわかれば、お願いしたいと思います。</p>
高橋事業管理者	<p>市長の方からあった厳しいというものでございますが、この厳しいという形のは将来事業を見越しての厳しさというふうに捉えています。というのは八千代市は浄水場が6か所、給水場が1か所と、7か所の施設を保有しております。それらが老朽化してきて、これを再構築していつて将来的には3か所にしてコストを下げていくという計画なんです、それを成し遂げるための事業費がかさみますので、それが将来負担として、起債残高が多額になってしまう傾向にあるということです。その上昇率をいかに抑えていくかということが、事業を展開しながらの起債残高を抑制して</p>

	<p>いくという、非常に難しさがあるんですが、その辺のことを市長は言われているんだろうなというふうに思います。</p> <p>公共下水道事業の方も同じように、老朽化したものについて今後、改修・修繕という形のものでてきますので、その辺の事業費と内部留保資金の蓄えとの兼ね合いの部分が厳しいと捉えています。</p> <p>それとあと人口減少の問題ですが、八千代市の場合、令和8年以降に減少傾向になるということですが、これはあくまでも推計上の問題であって、八千代市は今、開発が進んでおります。ご承知の通り緑が丘の開発が大きく進んで、あと2年半ぐらいは宅地造成が見込めるということで、給水申込納付金も2、3年は何とか今の状況が続くであろうと。ただしそれ以降ですね、大変厳しくなってくるだろうと、開発面積もだんだん少なくなってきましたので、この辺の開発行為がなくなってくると営業外収益が減ってくるというような感じで捉えております。</p> <p>できるだけ八千代市に人口減少を招かないような努力も必要なんだろうというふうに捉えていますので、そういったところが今のところの目安かなというふう考えています。</p>
大内委員	<p>ありがとうございます。ついでなんですが、この期末現在で、内部留保額の総額っていうのは公表できるのでしょうか。利益積立金は5億ということですが、それ以外の内部留保っていうのは、わかれば結構ですが。</p>
工藤経営企画課主任主事	<p>水道事業の内部留保資金ですが、資料1の3ページに、令和元年度末の保有資金残高ということで記載がございまして、こちらが利益積立金を含んだ形で27億8,615万7千円となっております。それと、人口の関係の補足なのですが、八千代市の人口ビジョンで、平成28年に策定されたものと、令和8年度が八千代市の人口のピークとなっておりますが、今年の3月に市の人口ビジョンが改訂されてございまして、そちらですと令和6年度が市の人口のピークとなる推計になっております。</p>
伊藤委員	<p>昨年度、上水道と下水道の料金改定をされてると思うんですけど、その中で、水道の収益については前年度より増えていて、下水道の方の収益が前年度と比べると減っているのは、なぜなのでしょう。</p>
齋田経営企画課長	<p>昨年10月の料金改定なんですけども、上水道のみで、下水道の方は平成27年に改定しております。</p>

伊藤委員	<p>ありがとうございます。失礼しました。</p>
袖澤議長	<p>私からちょっと技術的なことなんですけども、耐震化につきましてお聞きしたいんですが。4ページの青の四角で囲んでるところに具体的に図示した図があるんですけども、従来の水道管と耐震管で、従来は硬質塩化ビニルが多かったと思うんですけども、それをダクタイル鋳鉄管にするということで、この図を見ると管の管径が随分、太さが違うんですけども、具体的にどれぐらいの管径をしているのか、あとどのぐらい耐久性があるのかを教えてくださいなんですけども。</p>
佐藤上水道課長	<p>こちらの図の太さなんですけど、これはあくまでイメージ図でございまして、まず、管種につきまして、従来のものと、石綿セメント管という非常に脆い管を使用しておりました。あと、鋳鉄管という鉄の管等も使っていたのですが、耐震性能等は有していませんでした。石綿セメント管につきましては、ちょっとした衝撃ですぐわれてしまうという脆さがございました。鉄の管につきましても継ぎ手部分の強度が足りないとか、そういったものがございまして、今現在の耐震管につきましては本体の強度はもちろんです、継ぎ手の強度が増強されています。地盤の変動にも追従して若干伸びていくというものでございまして、仮に地盤の変動があったとしても抜け出さない、漏水を起こさないという管になっており、そういったものを使用しています。</p> <p>管径につきましては、これまで使っていた管径と同じなのですが、下は50mmから、配水管というのが「配る水の管」と書くんですけども、そちらにつきましては100mmとか150mm、200mm、300mmまでとか、そういった管を使用しています。</p> <p>送水管、導水管につきましては、導水管というのが、井戸を八千代市は使っているんですけど、井戸からくみ上げた水を浄水してお配りしているのが約半分、50%の水を使っています。井戸から浄水場に送り込む管を導水管と申しているんですけど、こちらについては、管径が様々あるんですけども、大体200mmから300mmとなっています。</p> <p>もう1種類、送水管というのがございますが、こちらは浄水場・給水場からお互いを繋いでいる管になっています。</p> <p>浄水場から別の浄水場に送り込んでいたり、そういったものが主な仕事になっているんですけど、こちらはもっと管径が太くてですね、一番大きいものが900mmの管を使用しております。</p>

袖澤議長	従来のものでしたら4, 50年もってたのが, それ以上はもつ耐久性は十分あるってことですか。
佐藤上水道課長	現在使っていますダクタイル鋳鉄管につきましては, 耐用年数は80年としております。
袖澤議長	<p>ありがとうございます。</p> <p>他にご質問あればお願いします。よろしいですか。ないようですので, 議題2「令和元年度決算の報告について」を終了させていただきます。</p>

【議題3】 第2次八千代市水道事業経営戦略実施計画及び、第2次八千代市公共下水道事業経営戦略実施計画について

袖澤議長	<p>議題3「第2次八千代市水道事業経営戦略実施計画及び、第2次八千代市公共下水道事業経営戦略実施計画について」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。</p>
齋田経営企画課長	<p>議題3の「第2次八千代市水道事業経営戦略実施計画及び、第2次八千代市公共下水道事業経営戦略実施計画」について、資料2と資料3に基づいてご説明いたします。資料の説明に入る前にまず、経営戦略とはどのようなものかご説明いたします。</p> <p>経営戦略は、総務省が公営企業に対し策定を求めている計画となりますが、人口減少や施設の老朽化が進む中で、将来にわたって安定的に事業を継続していくために、中長期的な視点から経営の健全化を実現するために策定する「経営の基本計画」でございます。本市においては、平成28年に最初の経営戦略を策定いたしました。その後、浄・給水場の統廃合等の計画を定めた「八千代市水道施設再構築基本計画」の策定や、水道料金の改定の実施、老朽化が進む下水道施設の更新を計画的に行っていくために策定した「八千代市下水道ストックマネジメント計画」の策定を行うなど事業の大きな変化がございましたので、これらの状況の変化を踏まえ、今年の2月に第2次経営戦略を策定いたしました。この第2次経営戦略に掲げた方針に基づき、今後の取組みをより具体的に示したものが、これから説明いたします実施計画になります。こちらにつきましては今年の6月に策定し、公表しているものとなっております。時間の都合上、全ての取組みについて説明することは難しいため、重点的な取組みを中心に説明してまいります。</p> <p>まず、資料2の水道事業からご説明いたします。</p> <p>4ページをご覧ください。下段の1-⑤「適正な資金管理」をご覧ください。先ほどの議題の決算の報告の中でもご説明させていただきましたが、水道事業につきましては、近年、水道管路の更新を進めるため、その財源として企業債の借入れを行ってまいりましたが、企業債への依存度が高く、企業債残高が増加しております。また、老朽化が進んでいた村上給水場の更新工事に昨年度から着手しておりますが、今後も八千代台浄水場の改良工事など他の老朽施設の更新を行っていくため、企業債の借入れを行っていく必要があります。こちらに企業債の充当率の目標設定として、充当率の%の設定をしておりますが、企業債の借入れを抑制していくため事</p>

業費の抑制に最大限、取り組んでまいります。

5ページをご覧ください。上段の1-⑥「水道料金の見直し」をご覧ください。先ほどの説明と共通する部分もございますが、今後も水道管の耐震化や浄水場等の更新を計画的に行っていくため、多額の事業費が必要になりますが、その財源を確保するため今年の10月に水道料金を見直し、平均改定率8.57%の料金改定を行いました。第2次経営戦略においては、今後も5年ごとに8%の水道料金の改定を行う計画としておりますが、必ずしも5年ごとに行うのではなく、毎年度の料金の収入状況や決算状況を確認しながら、改定の必要性の有無や改定の時期等について検討してまいります。

7ページをご覧ください。3-①「八千代市水道施設再構築基本計画の実施（浄・給水場の耐震化・老朽化対策）」でございます。「八千代市水道施設再構築基本計画」は平成30年12月に策定した計画でございますが、内容としましては、現在7つある浄・給水場を令和21年度までに3つの浄水場に統廃合していく計画となっております。最終的に3つの浄水場に統廃合する計画ですが、当面の間は、この統廃合計画を見据えた形で、老朽化が進んでいる施設の改良工事を進めてまいります。現在着手しているものとしては、村上給水場の施設改良工事がございます。こちらは昨年度に工事着手をしまして、令和3年度まで、3か年をかけて工事を行ってまいります。また、その後、令和4年度から八千代台浄水場の改良工事を令和6年度まで行い、さらにその後は高津浄水場の改良工事をやっていく計画となっております。また、現在、八千代市の水道水は半分を地下水、もう半分を北千葉広域水道企業団さんから送っていただいている水で賄っております。その北千葉さんから送っていただいている水は睦浄水場の1箇所を受水しておりますが、今後、萱田浄水場にも受水地点を新たに設けて、災害時等のバックアップ体制の強化を図ってまいります。

8ページをご覧ください。3-②「水道管路の耐震化・老朽化対策」でございますが、これまでも水道管路の耐震化を進めてまいりましたが、今後も引き続き管路の耐震化を行ってまいります。令和元年度末の管路の耐震化率は59.3%でしたが、令和6年度末で64.7%とすることを目指して整備をしております。水道事業の実施計画の説明は、以上となります。

続きまして、資料3の公共下水道事業の実施計画について、ご説明いたします。

資料3の3ページをご覧ください。上段の1-①「下水道施設の計画的・効率的な管理」でございますが、下水道事業につきましても、下水道管、

ポンプ場といった下水道施設の老朽化が進んでおります。このため、計画的に施設の改築等を行っていくため、昨年度に「八千代市下水道ストックマネジメント計画」を策定いたしました。

ストックマネジメントという言葉の意味でございますが、表の下の※印の所に記載しておりますが、長期的な視点で、施設全体の今後の老朽化の進展状況を考慮し、リスク評価等による優先順位付けを行った上で、施設の点検・調査、修繕・改築等を実施し、施設管理を最適化する、というものでございます。直近で予定されている工事としましては、令和3年度から八千代台地区の污水管渠の改築工事を行ってまいります。また、同じく令和3年度から北部污水中継ポンプ場の改築工事に着手する計画となっております。

続きまして、6ページをご覧ください。下段の2-①「污水施設の整備拡充」でございますが、污水管の整備につきましては、近年、吉橋工業地域内における污水管渠築造工事を進めてまいりましたが、これが令和2年度、今年度をもって整備が完了する予定でございます。令和元年度末の八千代市の下水道整備人口普及率は92.4%となっております。千葉県の平均が75.5%、全国平均が79.7%となっておりますので、千葉県や全国の平均と比べましても、本市はこれまでの整備により高い数値となっております。今後につきましては、まだ未整備となっている箇所について、どこを整備していくか、整備箇所の検討を行った上で、污水管渠の整備を行ってまいります。

8ページをご覧ください。下段の3-①「雨水施設の整備拡充」でございます。全国的に見られるものでございますが、近年、豪雨による浸水被害が多発しており、本市でも平成25年に発生した台風26号により、市内各所で浸水や道路冠水被害がございました。特に市の南部を流れる雨水幹線である八千代1号幹線沿線では、多くの家屋浸水被害がございました。このため、平成28年に策定した「八千代市大和田地区ほか下水道浸水被害軽減総合計画」により、現在、八千代1号幹線沿線地域の浸水対策を進めております。平成29年度から昨年度までの3か年で、大和田南小学校の校庭の地下に、貯留量15,500m³の調整池を築造する工事を行ってまいりました。現在は、この調整池に貯留した雨水を下流に流すための管の整備を、令和3年度の完成を目指し進めております。また、その他の地域における道路冠水などが発生する箇所につきましても、順次、整備を進めてまいります。

重点的な取組みのみの説明とさせていただきますが、説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

袖澤議長	どうもありがとうございました。ただいまの事務局からの説明に対して、内容その他についてご意見、ご質問等がありましたら、よろしくお願ひしたいと思います。
大内委員	重点的などところをご説明いただいたようではすけれども、一応確認なんですけど、1次の戦略から大きく変更になったところは今の説明のところということの理解でよろしいでしょうか。説明以外に大きな変更があったところがあれば、お願ひしたいと思います。
齋田経営企画課長	今、説明のあった中で、やはり各施設の計画ですとか、水道料金の改定、そういうもので大きなものの変更となったことから、第2次経営戦略を作ったと考えております。
大内委員	もう1件、浸水対策の強化というところで、先ほどご説明がありましたけれども、地元の話になってしまうんですが、ここにある令和2年度に、上高野地区の雨水排水工事というのがありますが、工業団地の中でも苦情が出ておりますので、工場協議会で、令和2年にやると言っておりますのでよろしいでしょうか。
吉田下水道課主幹	誠に申し訳ないのですけれども、この上高野地区の部分なんですけど、上高野の区画整理をやられた住宅街のところがあるんですけども、その奥のところの上高野原の部分になるんですけども、そこで雨水の道路冠水等、結構多くあったところがあるんですけども、その部分を実施することとしておまして、大変申し訳ないですけども工業団地の中ではございません。
大内委員	了解しました。ありがとうございます。
岩佐委員	昨今のコロナ禍によって、料金収入だとか、あるいは事業執行上の支障や何か、今後出てくるのか、出てこないのかということで、令和2年度の決算時にぜひそこら辺を分析していただいて、その影響も含めて、ご説明していただければありがたいなと思います。
藤縄給排水相談課長	水道料金関係のコロナの影響でございますが、今、一般家庭につきましては、在宅勤務等の実施もあり収益が上がっております、その他、会社とか工場とか、そういったものについては、少し収入が下がっております。下水道についても同じ状況になっています。

岩佐委員	<p>例えば、生活困窮者に補助するだとか、免除するとか、そういうような施策の検討はされているのでしょうか。検討する必要はないということでしょうか。</p>
高橋事業管理者	<p>全国的にですね、こういったコロナ禍による収入減ということで、基本料金の減免措置という形をとっている事業者が結構出てきました。これにつきまして私どもの方はですね、料金改定をした中で、基本料金を減免しますと、水道を送るための費用を賄いきれないということになっていきますので、この辺については私どもの方は減免措置には踏み切らなかったということでございます。それと同時に、国の方からは、支払い猶予については適正に行ってくださいというような指示もありましたので、支払い猶予の関係は積極的にアピールし、取り組んでおります。その辺のところまでしかできなくて、減免のところまでいっておりません。ですので、収入的にですね、多少の影響は出てると思いますけども、それ以前に大きな収入減となったのは、学校関係が休校になって、上水も下水も使用しないというような状況が続いたのと、飲食店の営業関係が水道水を使わないというような状況が結構続きましたので、その辺における収入減というのは、発生している状況にあります。</p>
岩佐委員	<p>ありがとうございました。了解しました。</p>
梶原委員	<p>水道事業のPRについてお願いがあるんですけども、現在は進行形ということでコロナ禍になっているんですけども、日本での感染者数が世界を見渡しても低い位置でずっと推移してるわけですね。これの要因の一つとして、前にいつか、7月頃でしたか、北千葉広域水道企業団から出した「水音」の中にも書いてあった通りですね、ウイルスに対して塩素による消毒がすごく効果がありますということで、その有効性が大いにあるということなんで、何か八千代市でも「上下水道だより」の中でもですね、効果があることを大いにうたっていただきたいと思うんですけど、いかがでしょうか。</p>
齋田経営企画課長	<p>「上下水道だより」につきましては、先週ですけども、編集会議が入っておりますので、各部署によっていろんな発表したいこと等を、今、対応しておりますので、委員からお話があった部分につきましても、もう1回編集委員と検討し、対応していきたいと思っております。</p>

伊藤委員	<p>浸水の関係なんですけれども、最近実例としてですね、なかなか大雨の中で防災放送といいたいでしょうか、それが聞き取りにくいというような話も聞く中で、例えばスマートフォンを活用した情報提供の仕方とかですね、そういったものについて何かお考えはあるんでしょうか。</p>
高橋事業管理者	<p>災害対応になりますと、危機管理課の方で対応しているわけですが、私もやっぱり浸水被害の大きなところを抱えているということで、確かに防災無線が豪雨の場合には多分聞こえないだろうと。それで今、情報メールという形で市の方で発信してまして、まだまだ登録者数が2万件程度までしか伸びてないということで、情報メールの取得を促していくということが、まず第一歩かなというふうに考えています。</p> <p>また、うちの方は大雨の際に、局の職員一丸となってパトロールをしながら冠水しそうなところに配置付けをして、対応している状況にあります。なるべく今の時代に即した情報の発信の仕方ということを危機管理課とともに検討して参りたいと思っています。</p>
小倉委員	<p>今のお話と関連なんですけど、上下水道局の仕事として、下水の処理・運搬っていうのは皆さんわかってると思うんですが、その洪水のいろいろ、防ぐための努力っていうのが、市民の方たちに、あんまり上下水道局でやっているんだっていうことが伝わっていないかもしれないと思ってます。水道の方は水道事業の広報ということで、ここにもあげられていますが、下水道事業の方でも特に洪水対策について、もっといろいろ、学校の校庭での貯留槽を造っているとか、いろんな努力なされているわけで、そういうところで上下水道局が頑張っているんだっていうのを、もっとアピールして、それで安心さも提供することになるわけですね。</p> <p>それから、そういうことにお金も当然かかるわけなので、将来の料金改定の時などのためにも、もっと下水道事業の広報も力を入れていただければいいんじゃないかなと思いました。</p>
齋田経営企画課長	<p>下水道課が対応してます1号幹線とか、雨水の部分ですね、そこにつきましても上下水道だよりで、皆さんに、上下水道局の方でやっているとすることもわかるような形でお示ししたいと思います。</p>
齊藤委員	<p>3点だけ教えてください。公共下水道事業経営戦略の4ページの中で、広域化・共同化の検討ということが書いてございます。これは多分、地震を想定されて、千葉県が管理する印旛沼流域下水道の終末処理場ですか、</p>

	<p>それが例えば、地震で機能が果たせなくなったといった場合に、どこかにつながなきゃいけないでしょうね。例えば江戸川左岸とか、あとは手賀沼ですか、その辺のことを考えていらっしゃるのかどうかということがまず第1点。</p> <p>それから第2点目は、雨水流出抑制策の推進ということが10ページに書かれております。これを読みますと開発事業者、協議・指導ということで書いてありますけども、各家庭で、貯留施設ですか、雨水浸透枮とか、あるいは市の方で実施するかどうかちょっとわかりませんが浸透舗装、そういったもので地下に浸透させるということもあろうかと思ったんですけども、その辺のところは1点。</p> <p>最後にもう1点ですね、8ページの2-④の取組の目的・内容ということで、未接続世帯に接続することを促すということを書いてございますけども、これ多分、整備人口に対して、水洗化人口がなかなか100%にならないと。そのことについては、例えば広報活動とか、あるいは接続に対しての広報活動をしていると思うんですけども、なぜ100%にいかないのか、その原因が何かあれば教えてもらいたいと思います。</p>
清田下水道課長	<p>広域化の件につきましては、効率的に下水道処理をしていくために、ご指摘ありました流域下水道の単位の組み換えだとか、そういったことも入ってきますけども、あとコミプラとか農業集落の排水施設だとか、そういったものを流域に繋いでみたりとか、そういったものも含めて、効率化もそうですし、災害対応とかも含めて、強く効率的にできるような形の大きなものの取り組みということでやっているものです。</p>
齊藤委員	<p>例えば、各流域下水道間のやりとりとか、そういうことではないということによろしいですか。</p>
清田下水道課長	<p>それは、そこまで大きなところではなく、効率的な下水道処理という形のことでございます。</p>
高橋事業管理者	<p>今、広域化・共同化ということですが、これにつきましては国の方針によりまして、全国的にその広域化・共同化について検討し、令和4年には方向性を示していただきたいというもとで協議が始まっております。これにつきましては上水の水道に関しても同じく協議が開始されたところでございますが、千葉県としてブロックごとに勉強会を設けて今後検討していくと、方向性を見出していくということで今、取り組み始めたという</p>

	<p>ころでございます。</p>
清田下水道課長	<p>雨水の浸透の件でございますけれども、こちらに書いておりますものにつきましては、開発の指導という形でして、これは指導要綱というものが定められておまして、それに基づいたものについては指導していくというところが主に書いてあるところなんですけれども、その開発指導の中では、できるのであれば浸透舗装をしていただいたり、それから浸透枮とかをやっただき、雨水の浸透枮につきましては、これはお願いのレベルなんですけれども、新しく家を建てられる際には、浸透枮をなるべく使ってくださいというような指導はなされております。</p>
齊藤委員	<p>市の方から補助金を出して、浸透枮を造ってくださいよっていうことは、していないのですか。</p>
清田下水道課長	<p>現時点ではそういったことはいたしておりません。</p>
藤縄給排水相談課長	<p>3点目のご質問の未接続の解消ということで、毎年、未接続世帯に対しまして、整備区域内で接続していない方への啓発なんですけれども、職員によって戸別訪問でパンフレットを持って各戸に伺っております。それが、令和元年度ですと560件あったんですが、解消されたのが23件となっております。それと、接続していただけない理由なんですけれども、お話を伺ってみますと、建て替える予定があるとか、浄化槽なのとか、年金暮らしだからお金がないというような、そういった方がございます。</p>
齊藤委員	<p>浄化槽で処理しているということで、よろしいんですね。</p>
藤縄給排水相談課長	<p>はい。</p>
袖澤議長	<p>私から、資料2の9ページで、災害時における給水タンクの整備で、給水タンク車を今年は購入されると書かれてるんですけども、その2台で、どのぐらい賄えるかわかりますか。例えば、人間の命を守るためには1日3リットルが必要と言われてるんですけども、それに十分な対応ができるのか。あるいはまた、場合によっては水道水を貯槽させる貯水槽を造る予定はないのか、お聞きしたいんですが。</p>

佐藤上水道課長	<p>まず、給水タンク車につきましてですが、現在保有が1台と、今年度、今契約して製作中というのが1台ございまして、年度末には計2台となります。積める水のボリュームにつきましては、2 m³、2トンの水を運べるタンク車になってございます。1台で666人分、1日1人3リットルとして666人分の水の容量になります。</p> <p>それから貯留槽につきましては、現在、八千代市内で、100トン級、100 m³級の貯留槽を2か所に設置してございます。場所が勝田中央公園の中と、西八千代調理場内にあります。</p>
袖澤議長	<p>100 m³ですか。それは大体、1万人ぐらいですよ。</p>
佐藤上水道課長	<p>はい。それが2か所ございます。今後の計画につきましては、この後の説明でも出てくるんですが、新しく今、上下水道局庁舎を建てる計画がございまして。その中で、そこにですね、同じ規模の100 m³級の貯水槽を設置しようと計画を立ててございます。</p>
袖澤議長	<p>もう1つ、下水道の方なんですけれども、資料の3の7ページの特定事業場における指導・監督について、年間延べ立入調査回数が12回となっているんですけれども、この特定事業場は、八千代市には何か所あるんでしょうか。この12回っていうのは、多分同じところではないと思うんですけども。</p>
吉田下水道課主幹	<p>大変申し訳ありません。今その資料を持ってないので、件数はわかりませんが、この特定事業場というところにつきましては、クリーニング店、メッキ工場、あと洗車機を持つようなガソリンスタンドとか、ディーラー、そういったところが特定事業場となっております。そういうところを調査に行っているという形になります。</p>
袖澤議長	<p>1か所じゃなくて何か所かを12回やるという予定でいらっしゃるのでしょうか。</p>
清田下水道課長	<p>延べになりますので、3、4か所を、年に3回、4回とか、そういったところでも12回行ってまいりますので、セレクトして順番に回ってくださるような形になります。</p>
袖澤議長	<p>例えばそれで規制値よりも有害物質が出たっていうところは、どうい</p>

<p>清田下水道 課長</p>	<p>対応をするのでしょうか。</p> <p>出たことを書面で通知しています。次回までに、原因をある程度、明らかにしてもらった上で改善をしていただくということを、書面で通知して、それから、それが次の時に改善されているかどうかということをやっています。</p>
<p>袖澤議長</p>	<p>他にありませんでしょうか。よろしいですか。では、ないようなので、議題3「第2次八千代市水道事業経営戦略実施計画及び、第2次八千代市公共水道事業経営戦略実施計画について」を終了させていただきます。</p> <p>それでは、次の議題に移りたいと思います。</p>

【議題4】 上下水道局庁舎の移転について

袖澤議長	<p>議題4「上下水道局庁舎の移転について」、事務局から説明をお願いします。</p>
齋田経営企画課長	<p>私から、議題4の上下水道局庁舎の移転について、資料4に基づいてご説明いたします。こちらの内容としましては、耐震性の不足する現在の上下水道局庁舎を、市役所の敷地内の耐震性のある建物に移転する、というものとなっております。現在、移転のための実施設計を行っている最中ですが、今後の整備内容やスケジュール等がある程度はつきりしてまいりましたので、ご説明させていただきたいと思えます。</p> <p>まず、現在の上下水道局庁舎の概要をご説明させていただきます。現在の上下水道局庁舎は昭和47年に建設され48年が経過しています。構造としましてはRC造の地上2階、塔屋1階の建物となっておりますが、平成22年度に実施した耐震診断において耐震性が不足していることが確認されております。耐震診断において、Is値、建物の耐震性能を表す指標が最小値で0.46となっており、現状のIs値では震度6強から7程度の地震が発生した際に倒壊又は崩壊する危険性があり、災害時に庁舎そのものが被害を受け、迅速な応急給水・復旧活動に支障が出る恐れがある状況となっております。なお、Is値が0.6以上の場合、倒壊又は崩壊の可能性が低いものとなっております。このような状況であるため、現在、上下水道局庁舎を耐震基準を満たす建物への移転を行うための準備を行っています。この上下水道局庁舎の移転につきましては、「八千代市庁舎整備基本計画」に基づき検討をしているものであり、市役所本庁舎の建て替えとともに、分散配置により市民の皆様の利便性や市職員の業務効率性の低下に繋がっていた教育委員会庁舎と、上下水道局庁舎を集約する方針となっております。</p> <p>上下水道局庁舎の移転先につきましては、市役所の敷地内を予定しておりますが、資料の2枚目をご覧ください。こちらは「八千代市新市庁舎建設基本設計」内の施設の配置計画図となっており、将来の市役所の新庁舎と上下水道局の新庁舎の配置予定図となっております。現在の上下水道局の場所は、右下の「公用車駐車場」と記載されている箇所になりますが、これが、左の方にある建物「上下水道局」と記載されている箇所に移転する予定となっております。また、そのすぐ上に「新庁舎」と記載がありますが、ここが市役所の新庁舎の建設予定場所となっております。下の上下水道局庁舎と書かれた場所に戻っていただきますと、緑色で囲まれた四角</p>

	<p>と、赤色で囲まれた四角がございます。緑色のものが今ある建物です。こちらは現在、市役所の第2別館として使用しているものです。赤色のものが新しく建築する建物です。新しい上下水道局庁舎の整備としましては、現在ある緑色部分の建物を耐震補強するとともに、赤色の部分に建物を増築するものとなっております。</p> <p>また、今回の資料には記載しておりませんが、図の新しい上下水道局庁舎の右側の地下に、容量100m³の耐震性の緊急用貯水槽を整備する予定でございます。緊急用貯水槽は、災害等で水道管が破断した場合など、水道の供給が停止した場合に、飲料水の確保を可能とする設備でございます。現在、緊急用貯水槽は市内に2つございますが、3つ目の緊急用貯水槽を市役所の敷地内に整備する計画でございます。</p> <p>前のページにお戻りください。②スケジュールとなりますが、令和3年度から整備に着手し、令和4年9月の供用開始を予定しております。</p> <p>③他事業者の事務所を同じ建物内に集約することを予定しております。具体的には、水道料金・下水道使用料の徴収業務を委託している業者さん、現在は第一環境㈱となっておりますが、こちらの事務所を同じ建物内に集約いたします。また、第一環境さんとは災害時の緊急応援の協定を締結しております。また、休日・夜間の庁舎管理や窓口業務等を委託している業者さん、㈱八千代市水道サービスとなっておりますが、こちらの事務所についても同じ建物内に集約いたします。こちらの水道サービスさんについては、漏水時の管路修繕等に24時間対応可能な体制をとっております。</p> <p>④番になりますが、この上下水道局庁舎の移転によるメリットといたしましては、市役所本庁舎に近くなるため、職員の業務が効率化される。市役所本庁舎に近くなることや、料金の徴収業者等が同じ建物に入ることにより、市民の利便性が向上する。市役所本庁舎とは別の建物であるため、万が一、市役所本庁舎が地震の被害を受けた場合でも、上下水道局の機能は維持できる。というメリットがございます。</p> <p>説明は以上となります。よろしくお願いたします。</p>
袖澤議長	<p>ただいまの事務局から説明がありました内容につきまして何かご意見ご質問等ございましたら、お願いたします。</p>
伊藤委員	<p>移転先の建物の目標とする耐震性能というのは、Is値でどれぐらいなんでしょうか。</p>

種田経営企画課副主幹	今回の改修の対象となります第2別館につきましては、Is値0.6を満たすような形で、新たに増築される部分につきましては、Is値0.75を満たすような形で予定しております。
伊藤委員	官公庁の建物については重要度を考えて0.6を1.5倍にして0.9というのが一つの目標値だと理解してるんですが、そこまでは特に求めてないということではよろしいでしょうか。
種田経営企画課副主幹	こちらの方が、1.5倍というよりは1.25倍の重要度係数を満たせば、震度の大きい震度6、7程度のもので持ちこたえられるという判断をしておりますので、重要度係数1.25を乗じた形で、Is値0.75を満たすような形で考えております。
袖澤議長	供用開始が令和4年9月なんですけども、施工が終わるのがどのぐらいなんでしょうか。
種田経営企画課副主幹	予定といたしましては、令和4年の6月末から7月あたりに終了する予定でございます。
袖澤議長	来年の初めから着工を始めるということですか。
種田経営企画課副主幹	令和3年の6月末あたりに着工というような形で予定しております。
袖澤議長	どれぐらいの広さなんですか、面積的には。
種田経営企画課副主幹	第2別館の改修と、あと増築部分を含めて2,000㎡ほどの予定です。現在まだ実施設計の最中ということもございまして、まだ確定ということでは申し上げることができないんですけども、およそ2,000㎡程度というような形で考えております。
梶原委員	上下水道局庁舎の移転ということで具体的にこう出てるんですけども、これは最終的に市民の方への周知っていうのも、もう考えているわけですか。

高橋事業管 理者	<p>これにつきましては、実施設計の終了が見通せた段階で周知していきたいと考えています。というのは、周知は大事なのですが、本庁舎そのものの建設がこのコロナ禍の中で、収束するまでということで着工を見送っている状況にあります。その中で上下水道局庁舎の建設が始まってしまうと、本庁舎の整備をやっているのかという誤解を招いてもいけませんので、その辺の周知は年明けになると思いますが、その頃には周知をしていきたいと考えております。</p>
袖澤議長	<p>他にありませんか。よろしいですか。ないようなので、議題4「上下水道局庁舎の移転について」は、終了させていただきます。</p> <p>以上で本日の議事はすべて終了しました。</p>

【その他】

袖澤議長	事務局から他に何かありましたら、お願いします。
齋田経営企画課長	本日はご審議いただき、ありがとうございました。次回の審議会の開催につきましては、令和3年2月ごろに予定しております。審議内容につきましては、今後、検討していく予定でございます。また、新型コロナウイルスの影響拡大に伴いまして、書面でのご審議になる場合もございますので、よろしく願いいたします。詳細につきましては段取りが整いましたらご連絡させていただきますので、よろしく願いいたします。
袖澤議長	他にありますでしょうか。
清田下水道課長	すいません。先ほど特定事業場の件数をお話できなかったもので、今ご説明させていただきます。令和元年度は43事業場ございました。その中で10か所、立ち入り検査を行っております。
袖澤議長	1年では回りきれないから、数年かけて巡回していくっていう形になりますよね。
清田下水道課長	はい。
袖澤議長	他にないでしょうか。では、これをもちまして令和2年度第1回八千代市上下水道事業運営審議会を閉会したいと思います。ありがとうございました。

以上